進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　2022 年　　10 月　　14 日
● 事　業　名　：　地域の力をつないだ複合型再犯防止事業
● 資金分配団体　：　日本更生保護協会
● 実 行 団 体　：　更生保護法人　清心寮

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1．社会復帰支援地域ネットワーク協議会に県内の多様な機関・団体が参画し、定期的な情報共有・意見交換と顔の見える関係ができる。	①地域支援ネットワーク協議会開催数	①初期値より 3 回増	2023 年 1 月	2022 年 6 月 13 日にリモート開催した。「埼玉県地域再犯防止推進事業」「訪問支援モデル事業」について報告された。次回は 2022 年 10 月よりスタートした「拠点事業」について報告予定。	3
（0101）連携すべき機関・団体が明らかになる（リストなどに整理されている）	①連携すべき機関・団体の名称と期待される支援内容が、整理され、リスト化されている ②新たに連携について説明に行った機関・団体数	①連携が必要と考える機関・団体と期待される支援内容を整理したリストが存在する ②当事者支援の中で、新たに連携が必要と判断した機関・団体のすべて（100%）	2023 年 1 月	① 2022 年 3 月にリスト作成した。 ② 上記リスト 17 団体の内、8 団体に説明した。2022 年 10 月 4 日にエコマップを作成し団体間の関係性を整理した。	3

（0102）連携すべき機関・団体が罪を犯した人の支援に協力する	①連携すべき機関・団体から、当事者の力になりたい（何かしらの支援に関わりたい）という想いがうかがえる（関連した発言や行動（例えば具体的な連携協力など）がみられる） ②連携できる機関・団体が増えている	'①刑務所出所者の支援に協力することについて肯定的な発言や行動が見られる。 ②0101 で作成した当初リストと比べて、連携機関・団体が（数や分野が）増加している。	2023年1月	① （0101）のリスト 17 団体の内、8 団体については 2021 年 10 月にスタートした訪問支援モデル事業で具体的な支援を行っていただいた。刑務所出所者の支援を行うことは初めてとの話があり、密に連絡を取り合っている。 ② 特に訪問支援モデル事業の対象者が増えることで、対象者の転居先地域の支援団体に依頼することが増えるため、新規の連携先が増えることになる。	2
（0103）連携機関・団体間（清心寮含む）の役割分担が明確になり、それぞれの機関・団体が刑務所出所者等支援に不安なく関われるようになる	①連携すべき機関・団体間における（01）の指標になっているリストの納得度 ②連携すべき機関・団体が抱える処遇に対する不安度	①連携すべき機関・団体が、リストに書かれた支援内容に納得している ②連携すべき機関・団体が「支援することに不安はない（あるいは、不安があったとしても大丈夫である）」と話してくれている	2023年1月	① 及び②ともに、具体的な支援を実施していただいた 8 団体は、対象者の同意を得た上で犯行など具体的経歴を隠さずに説明した。その上で支援の継続をしている。特にリストの障害者相談支援事業所「ささぼし」の相談員から、利用者の中には犯罪をして逮捕される方もいる。その時は留置場や拘置所に面会に行くこともあったとのこと、したがって、清心寮からの依頼は戸惑いもあったが、既に経験しているとのコメントをいただいた。	3

（0104）連携する機関・団体との良い協力関係が維持される（担当者が代わっても組織間の良い協力関係が維持される）	①連携先の機関・団体において担当者が代わっても変わらない連携関係がある状況	①連携先の機関・団体において、担当者が代わっても変わらない支援を得られるような仕組みがある（担当者の変更により、支援や協力程度に後退がない）	2023年１月	2021 年 10 月に始まった訪問支援モデル事業により、対象者ごとに１年間の訪問期間があり、その間に体制を整えている。	3
（0105）清心寮の職員がコーディネートの機能を果たすようになる（その仕組みができる）	①社会復帰支援計画（仮称）の作成・活用状況	①（2023 年１月時点では）すべての処遇対象者に対して社会復帰支援計画（箇所）が作成・活用されている	2023年１月	2022 年 4 月 27 日に社事大の新藤先生を講師として招きストレングスモデル研修を実施した。研修での学びを活かして入寮時調査を兼ねた更生計画書の書式にストレングスの視点を織り込み改善し、処遇会議で承認を得た上で今年度中に使用する予定。	2
（0106）罪を犯した人本人も必要な支援を受け入れ、自分自身の役割を果たすようになる	①（職員の方で訪問支援等フォローアップが必要と見立てた方における）訪問支援等フォローアップ支援の受け入れ率 ②社会復帰支援計画（仮称）に本人の役割が書かれている割合	①100％（必要と見立てた方の全てが支援を受け入れれば最も望ましい） ②100％（全ての支援対象者について、自分自身の役割が書かれていることが望ましい）	2023年１月	① 原則、清心寮に帰住した方全てを訪問支援の対象者として個別に説明しているが、訪問支援を望まない方もいる。 ② 更生計画書には、将来の夢や目標の記入欄を設け、自立のための取り組みに役立つよう、各担当補導員が具体的に働きかける。	2
２．就労開始後に就労支援フォローアップを受けて、就労支援専門員とつながる状態になる。	就労支援フォローアップ支援者数	年間１５０人	2023年１月	支援実人数 2022 年度９月末現在 20 人	2

３．薬物回復支援を継続的に受けられる状態になる。	①薬物回復支援の参加者数 ②薬物回復支援に参加を促すための個別の働き掛けを行った人数	①1 回あたりの参加者が１０人程度 ②2020 年度実人数 10 人 2021 年度新規実人数 10 人 2022 年度新規実人数 10 人	2023 年 1 月	① 1 回あたりの参加者 3 名が最高、2022 年度は 5 月、6 月、8 月は 1 回あたりの参加者 1 名。4 月、7 月、9 月は寮内でコロナ感染者が発生し中止。 ② 2020 年度 8 名（内 3 人登録） 2021 年度 8 名（内 3 人登録） 2022 年度 9 月末 8 名（内 2 名登録）	3
４．地域のボランティア活動に参加し、支援ボランティアとつながる状態になる。	①地域ボランティア活動実施回数 ②地域ボランティア活動参加者数	①毎年度 6 回以上実施する ②初期値より 2 人増	2023 年 1 月	① 2021 年 7 月 1 回ボランティア活動実施、2022 年上半期は活動実績なし。 ② 参加者 1 名	4 2022 年 5月に埼玉県ＢＢＳ連盟の活動は先方の意向で打ち切りとなった。

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.(任意)活動に関する報告
1.　社会復帰支援地域ネットワーク協議会 新型コロナウイルス感染拡大のため活動を自粛したが、2022 年 6 月 13 日にリモート開催した。また、埼玉県保護司会連合会と連携し、各地区のサポートセンターにタブレット端末を設置しリモートによる活動を行う予定である、計画より遅れているが、大宮と越谷のサポートセンターには既に設置し就労支援に活用した。他のタブレットは埼玉県保護司会連合会と連携し 2022 年内設置予定。 2.　就労支援フォローアップ 2022 年 4 月に埼玉県就労支援事業者機構の事務局長が交代し、今井新事務局長が就任した。訪問支援対象者の自宅へ訪問する際に随時同行していただき生活相談、就労相談を実施している。 ３．　薬物回復支援 対象者に働きかけを随時行い、自立転居後も関係を継続することで再犯防止に繋がっていると考えている。毎月開催している薬物ミーティングは参加者が少ない状況ではあるが地道に働きかけを継続してゆく。本来は実地での薬物ミーティングを行い軽食や飲み物の提供で和やかに行う予定であったが、コロナ禍でリモートミーティングとなっている。 ４．地域ボランティア活動については 埼玉県ＢＢＳ連盟の意向で 2022 年度については活動を打ち切ることになった。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☑その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：購入した備品類にシンボルマークのシールを貼っている。
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 無 2.広報制作物等 無 3.報告書等 無 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 無

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）